

「毛糸玉」ほぐす営み

「カムサハムニダ(ありがとう)」。日韓国交正常化50周年の22日夜、東京での記念行事で、安倍晋三首相はあいさつを韓国語で締めくくった。ソウルでは朴槿恵大統領が祝辞を述べた。ようやく実現した両首脳の相互参加。東京で森喜朗元首相は「うれしくてしょうがない。これまで心配をされていたそのご苦労を一気に飲み干したい」とこ



国交正常化50年

相互理解へ文化共生

「未来志向の良い集まりだったが、この3年間の関係悪化は、1日では元に戻らない」と語った。呉さんらが店を構える東京・新大久保のコリアンタウン。かつては「韓流の聖地」と呼ばれたが、2012年8月に韓国の李明博大統領(当時)が竹島に上陸したことから客足が減少。13年からは、デモ隊によるヘイトスピーチが追い打ちをかけた。商店主らによると、最盛期に約500軒あった韓国料理や韓流グッズなどの店は、400

軒に減った。そんな嫌な雰囲気を開きようとして、新大久保にある約150社の韓国人経営者らは昨年11月「多文化共生」を旗印に連合会を結成。アジア各国の作品を集めた映画祭を開いたり、地域に住む日韓の子供を対象にキムチ作りを教えたりする計画だ。呉さんは言う。「時間はかかっても、私たち民間が友好を実現させねば」

一方、日本と朝鮮半島との関係を静かに伝え続けるのが埼玉県日高市の高麗神社だ。都心から電車で約1時間半。山あいのもどかな集落の中に社がある。かつて朝鮮半島から中国大陸にまたがる地を有した王朝、高句麗から来た人々

だが、一帯をひらいたとされる。716年に朝廷から「高麗郡」を与えられ、神社は郡の首長だった高麗王若光を祭神とする。「出世がかなう神社」として知られ、参道沿いには平沼騏一郎、鳩山一郎といった首相経験者や、駐日韓国大使らが植樹した木が並木をつくり、独特の雰囲気を出す。

来年、郡ができて1300年を迎えるのを前に、記念事業推進のために地元で社団法人「高麗1300」が発足。理事長を第1次安倍政権の官房副長官で、09年に政界を引退した大野松茂さん(79)が務める。

大野さんはかつて、超党派の議員連盟「みんなが靖国神社に参拝する国会議員の会」に自民党議員として参加した

保守政治家だ。祖父や地域の出身の人がまつられているため、今も折に触れてお参りする。だが、今の排外主義的な「反韓」の風潮には「嘆かわしい」と批判的だ。「長い日韓の歴史の中で見れば、今はほんのちょっとした間もめているだけ。そんなことにごだわりたくない」と言う。そして「韓国側の態度に軟化の兆しが見える今、良かったころの関係に戻れるのではないかと期待する。」

朴大統領はソウルの行事でこう祝辞を述べた。「両国間には毛糸玉のようにからまった懸案があるが、両国民は互いを理解し、文化を通して交流し、心を分かち合いながら近い関係を築いてきた」。毛糸玉を解きほぐす営みは、少しずつ進み始めている。

【黒川晋史】